1969
2 月 号
No. 183
編集兼発行
鮫 川 村
総 務 課
協町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

2月の人口と世帯
人口 7.141(－7)
男 3.570(－4)
女 3.571(－3)
世帯数1.241(＋1)

林業構造改善事業
第一年度全事業完成近し

昭和四十三年度を初年度として着手した林業構造改善事業は、林道工事の二線を残して次のとおり完成しました。

林道工事も七割以上進捗しているので三月中旬には完成の見込みです。

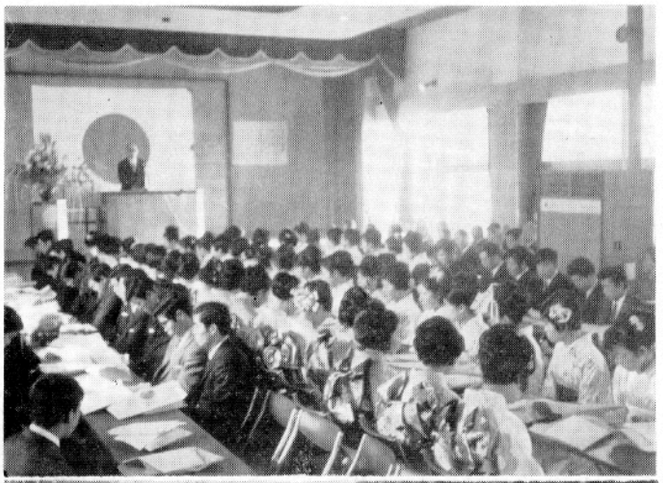
一、国有林野の活用事業
葉貫、戸草、内ヶ竜、青生野第二の四部分林組合で実施する。四六ヘクタールの部分林は、活用計画の樹立や手続が一切終りました。

二、素材生産施設及び造林施設の設置
東白森林組合（機械保管庫一棟、トラック一台、刈払機九台、チェンソー三台、植穴掘機五台、目立機一台）江竜田造林組合（刈払機三台、チェンソー一台）の施設を造る事業はそれぞれ完了しました

三、木炭生産施設の設置
石井草、東野、西山、渡瀬富田、以上五木炭生産組合でチェンソー一四台、切炭機二台を設置する事業も完了。

四、早期育成林業の促進
七友造林組合で四・四ヘクタールの早期育成林を設置しました。

林道二線を含め第一年目の総事業費は一千九百六十万円で、概ね順調なすべり出しで将来の成果が期待されています。





写真（上）1月15日成人の日に、一三五名の若人が、村長から祝福のことばをうけました。
（下）密林を切りひらいて奥山に伸びる木の根林構林道。完成の日も間近くなりました。

春季 全国火災予防運動
実施期間 2月28日から3月13日まで

春は気象の上から火災が多発しやすくまた大火になりやすいので火災予防思想を一段と高め日常生活の防火管理を指導し、火災発生の防止と人命損傷事故の絶滅を図る目的で、この運動が行なわれます。

◎全国いつせい実施事項
(1)旅館ホテルにおける避難設備と宿泊者に対する避難経路の案内
(2)林野火災の防止
(3)就寝、外出時の火の元点検

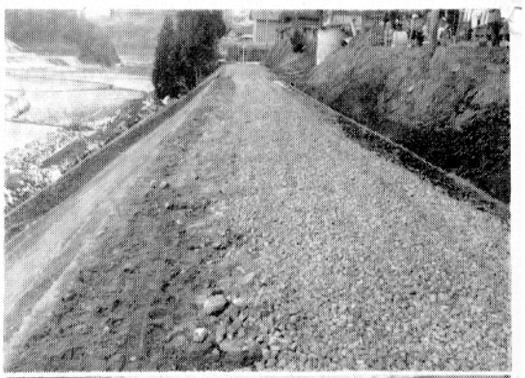
◆住宅火災を少なくするために

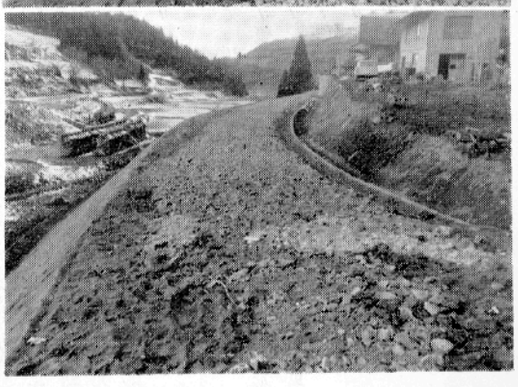
県内の火災の大部分は建物火災で、そのまた大部分が住宅（居住建物）火災です。次のことに注意し村内から絶対に火事を出さないよう努めましょう。

1風呂かまど
最近は風呂に石油を使用する家庭が多くなっているので、次のことに注意しましょう。
●燃料タンクに漏れる箇所はないか。
●燃料タンクは過熱される恐れのある場所にないか。
●燃料供給用の配管、ホースに漏れる箇所はないか。
●燃料ホースは耐熱性があるか。
●燃料ホースは過熱される恐れはないか。
●燃焼器具、装置に漏れる箇所はないか。
●燃焼器具、装置の清掃はやっているか。
●カラだきになる恐れはないか。
●使用中に燃料を入れることはないか。
●煙突に過熱部分はないか。

2こんろ
台所等のこんろによる火災中最も多いのはガスこんろです。
●燃焼器具にガス漏れをする部分はないか
●空気量は適正に調整されているか。
●燃焼器具の清掃はなされているか。
●燃焼器具の取付け（ホースとの接続等）は完全か。
●コック類は完全か。
●ガス用配管、ホースに漏れる箇所はないか。
●ボンベの置場所は適正か。
●ボンベに設けた調整器は正常か。
●配管は適正に行なわれているか。
●ホースの長さ接続方法は適正か。

3ストーブ
大部分が石油を燃料とするストーブによるものです。
●燃料タンクに漏れる箇所はないか。
●移動、注油は消火してから行なっているか。
●附近にカーテン等燃えやすいものはないか。
●置き場所は傾斜、転倒しないような場所か。
●器具の清掃は完全か。
●エントツのあるものはエントツに過熱部分はないか。





（写真は県単林道も相次いで完成。）

村県民税の申告について

今年も村県民税の申告期が迫りました。申告者の便宜をはかり、各区に係員が出張し申告について相談と受付を行ないます。いざ申告となりますと家族の生年月日や生命保険料の払込領収書等持参しない方が毎年何人か見られます。諸控除に必要な受領書等については今から準備して下さい。なお諸控除は次のとおりです。

○医療費控除＝総所得金の五%を超える額
○社会保険控除＝支払った額
○生命保険控除＝年間九千円以上払込額
○障害者控除＝一人六万円
　重度障害八万円
○老年者控除＝六万円
○寡婦控除＝六万円
○勤労学生＝六万円
○配偶者控除＝九万円
○扶養控除＝一人五万円（八万円）
○基礎控除＝十一万円

バイク等のナンバー 更新は済みましたか!!

バイク（一二五CC以下）と乗運耕耘機のナンバー（標識）は村が交付することになつています。

ナンバーの規格改正で昨年十二月十三日から、村内三十六ヶ所でナンバー更新を実施いたしましたが、未だに更新されない車も見受けられますので、近いうちに役場で更新されるようお願いします。

更新される場合は次の点に御注意下さい。

①現在のナンバーを取りつけたときから、車台、エンヂン等が同じときは、ナンバーを取りはずして御持参下さい。

②車台、エンヂン等を変更したときは、車台番号、エンヂン番号、車名を記録しナンバーと一緒に提出して下さい。

大楽公民館長再任

大楽勝男公民館長さんは、去る十二月末で任期満了でしたが、公民館運営審議会の答申により、教育委員会では再任に決定し、一月一日辞令が交付され、一層の御活躍が期待されています。

鮫川史(五) 水戸天狗党員 越惣太郎 就搏の地発見の動機

国島義広

今を去る五十余年前、明治四十三年三月中旬の事、余と同年同級生であつた渡瀬字福原の芳賀敏君（故人）と棚倉農蚕学校（今の農商高校）に入学するに当り、打合せに行きその戻り途、徒歩にて赤坂中野新宿の杉山いねさん（今は故人で当時産婆をやつており杉山忠男氏の祖母）と道連れて、宇津木坂と云う山道を通つた時であつた。

杉山産婆さんが突然、「五十年程前に天狗党がこゝで宿の服部健蔵と捕手勇蔵に捕えられた所だ。健蔵が死んで三年になる」と話されたが、少年の私にしては天狗党と云つても何んだかわからなかつた又杉山さんにしても、天狗党員と云つても三百六十七名あるが、名もない野次馬や野武士を加えれば千数百名と云うから其の名も無い者がこの地に入り、捕えられたと思つて居たが、何れ服部健蔵と捕手の勇蔵は偉い人であると考えていたので、今年明治百年の機に、この人柄を調べて見ようと思いたち、春頃から地方の古老の方々を尋ねて聞いてみたがよくわからず、遂に断念していたがある所にて、湯座とわさん家と何か関係のある事を聞いたので同家を尋ねた。

祖父の代であるが、偉い人を客仏として我が家の墓に葬つて置くとの事であつた。

これを塙町の金沢春友先生に話したら、それは大した発見である。天狗党といつても指導者級の大学者で、贈正五位越惣太郎と云う人である事を聞いたのは、去る十二月二十日の事である。健蔵や勇蔵の事はきいて居たが、大学者越惣太郎の事は始めて知つたのである。

それから湯座二衛氏の協力を得て、墓地の碑を見、長遠寺住職を尋ねて戒名から没年月日を調べた所、左の様な事が判明した。

服部健蔵叓
明治四十年十一月二十一日享年八十二才没

湯座院健翁教照清居士

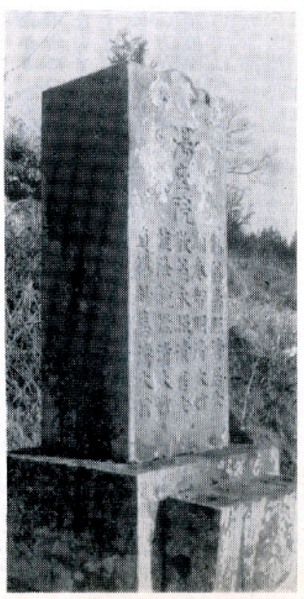
「註元治元年十二月事件当時三十八才」尚この時これに協力されたのは地元の捕手勇蔵叓

隆嶽明道清信士
明治四十五年（大正元年六月二十八日没

七十九才

「註元治元年十二月事件当時三十才」右の様に長音寺過去帖に明らかにす。

この勤王、佐幕の両勇偉人の遺跡が鮫川村に有る事を世人の未だ知らざるを遺憾とすこの稿を草するに当り、湯座二衛氏及び長遠寺住職青木正隆師の協力に感謝の意を表する。（末完）



服部健蔵の墓碑　向つて左側面に刻みあり「湯座院健翁教照清居士」

おめでた

十二月
大石草　鈴木　裕樹父孝雄
遠ヶ竜　矢吹　和浩〃三郎
青生野　土手内吉美〃利雄
広畑　斉藤　明〃輔男

一月
青生野　星　正勝父弘
伊柳沢　鈴木　里美〃豊年
酒垂　斉藤美智子〃実
大久保　生田目幸子〃利夫
関下　山形まゆみ〃政雄
摺合　芳賀　幸一〃正志
官代　前田　章〃武久
中山　蛭田　寿夫〃栄次

おくやみ

十二月　年世帯主
滝ノ下　蛭田　武夫47京之助
二本田　酒井　幸助74国光
蕨平　藤元　ナカ74四郎

一月
追木　水野　重世70久
楢久保　森　要助66亨
二本田　酒井　ムメ71国光
折戸　阿久津幸男4留之助



阿武隈山系調査地域に入る

村長　石田卯子八

農林省が昭和四四年度の新しい施策として打ち出した「広域未開発地域総合開発調査」には、全国から早くもいくつかの要望地域が出ていました。

北海道の根室、岩手の北上、新潟の岩船大分の久住、飯田、それに福島の阿武隈の五ヶ所がそれです。

本県の阿武隈山系開発の要望は、全県的運動に盛り上り、昨年一一月、知事を会長とする福島県阿武隈山系開発期成同盟会が設立されましたが、更にこの運動を広域化して充実するため、八溝山系を含め福島、栃木茨城の三県連合体で、調査地域指定を獲得することにしたわけです。

しかし、一月早々蓋をあけた大蔵省原案には、北海道一、九州一の二ヶ所が入つているだけで、阿武隈は完全に落ちていることがわかりました。

それで本県関係者は、熱烈な巻き返し運動を展開しました。先ず、一月八日大蔵原案の出た直後、衆議院第二議員会館の第五号会議室で、急遽実行委員会を開き対策を協議しました。

木村知事も非常な決意で臨まれ、県選出の衆参両院議員も殆んど全員出席されました

あいにく実行委員長の早川俊通県議会議長が、開会時刻におくれ、私が開会を宣するようなことになりましたが、石原、渋谷、湊、山下その他の国会議員から、それぞれの立場で得られた情勢の報告があり、それに基いてこれからの運動の焦点をしぼることができました。

そこで一行は、決意を新にして各省の陳情に出かけました。知事を先頭に国会議員の先生方も超党派で参加され、関係町村長、県の部課長など四十余名で、先づ農林省に向いました。

折から予算復活を目ざして全国から集つた陳情団や圧力団体がゴツタがえす中を、長谷川農林大臣が大臣室を出ようとするところを捉え、木村知事が熱心に口説く場面もありました。

大蔵省はさすがに予算編成の本元だけに、押しかける陳情団も多く、警戒も厳重で、入口の前には机をならべて一人づつ辛うじて通れるようにしてあり、自民党本部なども人の波で、予算獲得のゼツケンをつけた団体役員などで身動きも出来ない混雑ぶりでした。

このような状景を見ては、阿武隈の復活指定果して成るかと、誰しも悲観的にならざるを得なかつたようです。

こんな時は流言蜚語がどこからともなく流れてくるもので、「福島県は前回の自民党総裁選挙に、藤山愛一郎に入れたからダメだ」「北上山系には野原正勝、鈴木善幸がついている」「岩船の背後には新潟選出の田中幹事長がいる」などときこえてくる始末で内心暗胆たるものがありました。

しかし最後まで根強いねばりと努力が続けられ、阿武隈・八溝山系開発は、国の調査地域指定に入ることができました。

木村知事の非常な熱の入れかたとその御努力、国会議員団の超党的な御協力、関係諸機関諸団体を初め、一般県民各位の御後援に深く感謝の意を表する次第です。

× × ×

議会だより

大録田橋架替工事費 二五〇万円計上

四十四年第一回臨時会は一月二十八日に招集され、十七名（欠員一名）の議員が出席し次の二件の議案が審議され原案どおり可決されました。

◉議案第一号　昭和四十三年度鮫川村一般会計補正予算（第八号）

村民税五十二万七千円、木材引取税六十万二千円、自動車取得税交付金六十万円、県補助金六万六千円、電気導入事業寄附金三十一万六千円の増と、電気導入事業工事負担金三十万一千円、辺地対策事業債八十万円の減による才入百一万円の財源で、区長等退職報償費六万九千円、橋りょう架替工事請負費に百万円が補正されて二五〇万円となり桑胴枯病防除事業費補助金六万六千円、消防団出場手当五万円、鮫川中学校校舎補強工事請負金二十二万円等が補正増となり、不足分は既定才出予算で不用になつた項目の減額で補なわれました。

◉議案第一号（議員提案）

鮫川村議会委員会条例の一部を改正する条例

村役場内の課制変更にともない各常任委員会の所管事務分掌を改正したものです。

議員懇談会

議会の本会議は法律や規則によつて運営されるので、議員同志の意思疏通を欠き形式的に流れる面もあるので、自由に話し合う機会をもとうと一月十四日に第一回の懇談会を開き、議会運営について話し合いました。

第二回は第一回臨時会終了後に開き四十四年度予算編成にあたり、村長の構想を聞き各議員より要望がありました

※※※※※※※※※※ 住民の窓 ※※※※※※※※※※

◉窓口事務の一元化!!

機動的事務能率の向上を図るため、昨年の六月に役場事務機構の改革を行い、総務課と税務課を併せて〔総務課〕住民課と産業課を併せて〔産業福祉課〕の二課制を実施しましたが、去る十一月から更に窓口事務の一元化を図り、又住民相談室を設け、住民行政のサービスに努めております。

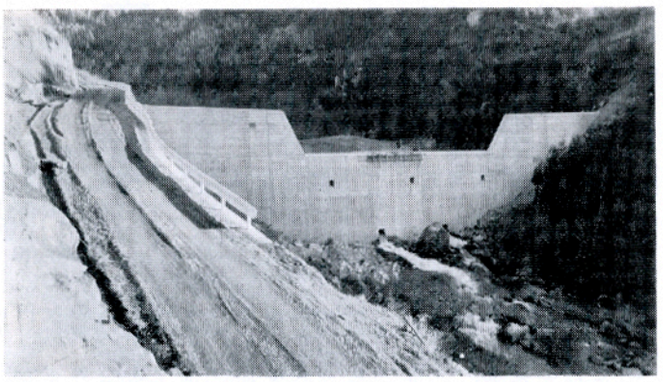
従来は各係にいちいちあわなければ用件が足りないという不便がありましたが、これからは役場に用事のある場合はすべて受付案内係に申し出ればそれで用件がすむことになりました。

又相談事があれば、どんなちいさなことでも受付に申し出れば担当係が相談室（別室）に出向き相談に応じます。

わだかまりのない、明るく健康な生活を築くためにも、気軽に相談室を利用されるようお願いします。

なお窓口事務及び相談室は産業福祉課の福祉係が担当しております。

× × ×



渡瀬川に建設された砂防ダム。工費　1,800万円



主要地方道勿来棚倉線は、毎年改良工事が行なわれ本県のなこそから新潟県のやひこに通ずる国道に昇格運動が続けられています。

農繁期は共同炊事で

江竜田貯蓄実践地区の近況

江竜田生活改善グループは、昭和四十二年十月一日から二年間、県と県貯蓄推進委員会が設定したモデル貯蓄実践地区の指定をうけてから、農村生活の合理化を目指し、貯蓄活動を中心とした幅広い活動を続けています。家計簿記帳については、毎月行なわれるグループ会の際に集計し、棚倉農業改良普及所の高橋先生に報告し、助言をいただいております。また同先生の御指導のもとに、食生活調査を春秋二回にわたり実施しカロリーなどを計算していただき、とても為になりました。

一方田植期には共同作業をして労力不足を補いあいましたので、手不足の農家からはとてもよろこばれました。

秋の稲刈期には、共同作業に加えて共同炊事を実施しました。内容は昼食だけでしたが共同炊事のありがたさがわかり、よろこばれました。一月十三日、共同炊事の反省会を開き、石田村長さんや婦人会長さんを招待して、有意義なお話をお聞きして、共同炊事場を造り共同炊事を続けてゆく決意をしました。それで、部落総会を開いていただき協議の結果、全員の賛成を得たので「共同炊事場設置」にふみきりました。このため二月六日に先進地を視察する予定です。

私達にとつては初めて大金を投じた大事業に体当りするわけで、何かうれしいようなおそろしいような複雑な気持で一杯です。でもグループ員が協力して末永く続けてゆく覚悟です。こうしたことが会員の和合のもとになり、たびたび集つては編物などを楽しくやつています。

今後いろいろの障害が予想されるが容易でないことは思いますが村や普及所の御指導をたよりにグループ員一同一生懸命努力して行こうと考えております。



村道砂利敷に威力を発揮する4tダンプカー。昭和43年度事業で国庫補助をうけ購入。

民謡同好会の発足と講座開設

民謡は心のふるさととか申し、遠い昔より歌い伝えられて来た生活の唄です。

長いこと民謡講座を開くよう各方面より要望ありましたので、去る一月二十二日午後六時より村公民館に於て、同好の志三十六名程の参集を得て鮫川村民謡同好会が誕生し次のような講座を開くことになりました。

一、開講日時　毎月第一、二、三、四水曜日午後七時～九時

二、場　所　鮫川村公民館

三、月　謝　五百円外に会費五十円（毎月第一水曜日に納入）

四、講　師　小湊　光美先生
　　小湊八重子先生

寄附のお知らせ

次の方々から寄附がありました。紙上より厚く御礼申上げます。

・村基本財産へ寄附

金壱万円（金婚記念）
北条佐四郎殿

金壱万円（初老記念）
白坂　邦次殿

金参千円（亡父の遺志）
蛭田　武彦殿

金参千円（亡夫の遺志）
土手内ハマ殿

金五千円（亡母の遺志）
松崎　安殿

金四千円（亡母の遺志）
藤元　四郎殿

金五千円（亡父の遺志）
水野　久殿

○学校備品寄附

学習新国語辞典十一冊
（亡妻の遺志により）
坂本　長治殿

待ち遠しい入学
昭和四十四年度
新入学児童



◎青生野小学校

児童名　保護者　住所

星　勝富（弘）青生野
甲賀　浩子（武美）〃
吉成　利治（四郎）〃
藤田みつ子（亀太郎）〃
本田　稔（清一）〃
岡部久美子（文雄）〃
金田よしこ（七五三明）〃
山形　弘美（久男）〃
白石すい子（重男）〃
森田　俊世（俊策）〃
平久江恵子（四郎）〃
生田目一（忠之助）〃
岡部みどり（昭男）〃
中島　好子（唯男）〃
長井　尚子（進一）〃
新妻　明美（光江）〃
森田　末子（森嗣）〃
吉成　良光（義雄）〃
男七名　女一一名　計一八名

◎渡瀬小学校

大森キイ子（茂）中野町
金沢　明広（信雄）〃
小松　広昭（サカイ）上耕地
赤坂　幸枝（貞雄）〃
千葉　洋子（好子）〃
蛭田　邦栄（栄次）中山
国井　良男（鬼子治）〃
蛭田　浩末（浩市）田苗下
蛭田　和也（秀也）福原
金沢　寿（光寿）〃
木之内ヤスヨ（喜久雄）下
高久　誠（和雄）田尻
蛭田　次枝（政光）田の上
蛭田　和浩（一）〃
芳賀　弘幸（福雄）江竜田
芳賀　恵子（恵一）〃
芳賀　正信（正一）西野沢
藤田　栄子（栄）関下
蛭田　敏（洋二）関口
藤田　芳子（一朗）〃
藤田　仁子（好幸）〃
藤田　香（昌司）〃
藤田アサ子（文雄）〃
小松　良子（幸一）大戸中
藤田　弘子（滋）関口耕地
小野瀬　進（誠）越虫
藤田　則雄（義雄）〃
藤田ヨシ子（美喜男）〃
遠藤　利博（光利）木之根
蛭田　敏子（貫男）福原
男一五名　女一五名　計三〇名

◎富田小学校

円井　勝広（末之助）中沢
矢吹　良子（一郎）〃
石井　静子（一男）〃
矢吹　静江（伝）〃
我妻　洋子（一男）前沼
坂本　光男（春光）〃
栗原　春枝（一郎）鍬木田
船木　康（正衛）反田
松本　伸一（源一）〃
小川　昌代（久之）鍬木田
松本万里子（重忠）反田
男四名　女七名　計一一名

◎鮫川小学校

高木　義男（好勝）薄ヶ久保
瀬戸　正樹（光雄）新宿
鈴木　泉（芳男）〃
小林　悦子（春男）〃
板橋　一（源良）道少田
円井由美子（栄一）〃
前田　守幸（守保）〃
渡辺　律子（邦夫）〃
佐藤美加子（幸一）伏木田
石原　忠男（正人）二本田
円井　和子（富宣）滝平
円井　和広（操）〃
中井　浩（五郎）巡ヶ作
円井　豊子（幸男）見渡
矢吹　正生（一男）大塩
矢吹　春子（啓）〃
金沢　公子（守）前田
鈴木　道夫（辰男）馬場
芳賀　元子（重光）摺合
生田目広通（通）辺栗
渡部　広（三次郎）強滝
藤田　麻里（隆千代）広畑
蛭田みどり（一郎）滝の下
円谷せつ子（由郎）蕨の草
中川西啓子（春美）内ヶ竜
宗田　憲郎（秀郎）〃
田子　久子（勉一）官代
前田　正男（重男）前田
前田　豊（甲子男）〃
前田　強（豊太）〃
中川西春代（吉正）石井
斎藤　浩則（正光）草牛
蛭田　安男（長治）渡ノ下
舟木　裕二（近明）石ノ花
舟木　幸男（重勝）寅卯平
男二〇名　女一五名　計三五名

◎戸草分校

三瓶　洋子（錦）木戸沢
芳賀　一成（万治）草木
芳賀ミイ子（シメノ）戸草
関根　昭弘（初吉）〃
松崎　昭子（昭義）〃
芳賀　典男（留一郎）伊柳沢
溝井美智子（昭三）〃
男三名　女四名　計七名

◎東野分校

鈴木　正人（孝雄）大石草
芳賀美佐子（清）〃
森　好弘（康）遠ヶ竜
森　光一（啓）〃
森　文子（保）〃
森　しのぶ（清）〃
吉田　満（忠男）大房
有賀　和弘（岩男）楢久保
萩原　長治（実）大根屋敷
佐久間洋一（フミヨ）〃
有賀チイ子（久男）小名沢
中川西弘子（健治）中内
玉木　順子（幸次郎）大根屋敷
萩原　治子（治蔵）〃
男七名　女七名　計一四名

◎西野小学校

生田目栄子（俊光）酒垂
石井　幸一（隆夫）〃
石井　照子（照弥）〃
須藤　恭子（久良）名下
西野　善弘（長治）〃
石井　治子（清市郎）滝
石井　正四（勝男）虹ヶ沢
緑川　京子（勤）仁田
北条久美子（久弥）舳長
北条　喜子（平）〃
高坂　正人（正光）上
高坂　浩幸（幸男）上
鈴木　孝子（幹宏）浅屋敷
鈴木　芳男（正秋）〃
増子　陽子（久美）前塩倉
関根二三子（正一）荻之沢
佐藤　幸子（光久）火打石
吉田いみ子（一部）上野町
矢吹恵美子（弘）〃
藤田千代子（詰治）本坂
円井　恵子（好男）〃
北条　浩伸（辰之）押目
北条　喜浩（恵三）〃
高坂　栄子（博）西田子
宣広（金夫）酒垂
男九名　女一六名　計二五名

◎西山小学校

矢吹　仁（広信）横座
緑川　勝代（勝美）押野
渡部　洋子（吉男）宝木
水野　健（ユキ）〃
関根　博幸（功男）余所内
関根　正雄（登）〃
関根　政一（一郎）西野内
阿久津元子（政次）折戸
阿久津純子（清次）〃
阿久津かよ子（甲子男）〃
芳賀　正（一兄）鍛治平
松崎　友子（義一）岩野草
水野　学（清一）沼野沢
松本　守（庄市）〃
関根ますみ（忠雄）大平
石井　明光（利勝）大沢
鈴木　栄子（誼）田中
大竹　弘（清一）後田中
関根　好行（金二）菅田
生田目忠徳（正次）〃
関根　裕治（彦孝）赤柴
水野　彦徳（光雄）宝木
関根　明美（友保）水口
男一四名　女九名　計二三名
合　計　一六三名

この名簿は昭和四十四年一月五日現在で住民台帳から調査記入したものです。もし洩れている方がありましたら村教育委員会に御連絡願います。

電話四二番（公民館内）

入学前の子供のしつけ
＝新入生の保護者へ＝

まもなく春が訪れ入学期になります。

環境が違うと、なれるまで子供さんは大変苦痛を伴ないますから入学前に次のようなことをしつけておき、よろこんで学校に行くようにして下さい。

◉用便は一人でできるようにし、用便の後や、食事の前には必ず手を洗うようにして下さい。

◉毎朝登校する前に、便所に行くように習慣づけて下さい

◉昼は給食になりますのでパン食、ミルクになれるようにして下さい。

◉道路は必ず右側を歩くように教えて下さい。

◉自分の持物には必ず名前をつけてやって下さい。

◉自分の名前が呼ばれたら、「ハイ」と返事ができるようにして下さい。

◉自分の名前は、ひらがなでたて書き、横書きがよめるように教えて下さい。

◉数字は、ひとつからとおまで数えたり、書けるよう指導して下さい。

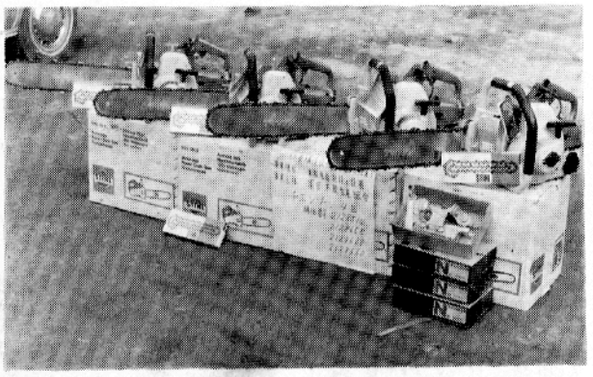
◉お父さん、お母さんの名前や自分の部落の名を言いるようにして下さい。

◉耳だれやトラコーマなどの病気は入学前に治療しておいて下さい。

◉学用品は学校で一括購入するものがたくさんありますので、学校からの話しがあってから準備をするようにして下さい。

◉名前は、赤ん坊のときからのくせで略している家庭もあるようですが、正しい名前で呼ぶよう注意して下さい。

◉子供には先生はこわいとか先生におこられるとかは、絶対に教えないで下さい。



年金だより

近い将来、医療制度を含め社会保障制度の抜本的大改正が予想されております。

老後の幸わせを守る国民年金も福祉年金と相まって、その時の貨幣価値により概ね五年毎に調整されることになっていますし、又所得が少ないときや、災害のため納入困難な場合は申請により一時保険料の納入が免除され、この免除を受けていても、若し途中で事故があった場合は、障害年金や母子年金が支給される仕組になっています。

外国の例をみても、先進国ほど年金制度を含め福祉制度が確立されており、その国は繁栄し国民は豊かで平和な生活を営んでおります。

どうか国民年金制度の趣旨をよく御理解いただき、昭和四十四年度の保険料納入についても一段の御協力をお願いいたします。

保険料の免除は早目に申請しましょう!!

所得の都合で四十四年度の保険料納入が困難と思われるときは早く申請して下さい。

（三月中）

免除申請は七月末日までに行けば四月から一年分が免除になりますが、事務処理上三月から免除申請を受付けますので印鑑持参の上産業福祉課に相談して下さい。

写真は富田木炭組合が設置のチェンソーや炭切機